

市民活動サポートセンター いなぎ

ニュースレター

No.24

2009.2.25

発行/NPO法人

市民活動サポートセンターいなぎ

事務局/〒206-0802

稲城市東長沼2112-1

稲城市地域振興プラザ1F

市民活動サポートセンター内

電話 042-378-2112

FAX 042-378-6971

E-mail: info@i-inagi-support.org

http://www.i-inagi-support.org/

今、全国各地で学校と家庭と地域の連携による新しい学校の姿が模索されています。

今回は「学校と地域の融合」に取り組み、習志野市秋津コミュニティで顧問を務めている岸裕司さんをお招きし、秋津小学校コミュニティルームでの楽しい多彩な活動やお父さん達の「ごろごろとしよしつ」作りなど楽しくアイデア満載の活動について伺います。

NPO講座

「学校と地域の融合」

～スクール・コミュニティの 実践に学ぶ～

- 日時/平成21年3月1日(日)
午後1時30分～3時30分
- 会場/稲城市地域振興プラザ4階
- 講師/岸 裕司氏
(習志野市秋津コミュニティ顧問)
- 参加費/無料
- 定員/50人(先着順)
- 主催/NPO法人市民活動サポートセンターいなぎ
- 後援/稲城市教育委員会

●申込方法

電話：042-378-2112

Fax：042-378-6971

Mail：info@i-inagi-support.org

のいずれかで申し込んでください。

※ファクス、メールの場合は、住所・氏名・電話番号を記入してください。

【問合せ・連絡先】 市民活動サポートセンターいなぎ(市役所協働推進課内)

電話 042-378-2112

FAX 042-378-6971

新年の夢を語り合いました。

原則毎月第一金曜日は、地域で活躍している方に話し手になっていただいて行く金曜サロンスペシャルの日。その特別編として1月9日に新年会を行いました。

金曜サロンの常連の方はもとより、話し手として協力いただいた方、利用登録団体のメンバー、市民活動サポートセンターいなぎの会員など30数名が参加、みんなで新年の夢を楽しく語り合いました。



十二月

「観光旅行を120パーセント楽しむ方法」

話し手：石坂 政史さん

パッケージツアーに参加すると、観光スポットはすべて網羅されているのに、物足りない思いをすることがよくあります。ですから、120パーセント楽しむ方法って、何だろうと興味津々でした。

高校時代から大学時代にかけての石坂さんのバイブルは、小田実の“何でも見てやろう”だったとか話を聞き終わって、その青年期の発想と体験が、旅を演出する石坂さんの仕事にずっと貫かれていたように思えました。

例えばこんな話も・・・私の旅行術は“何でも見てやろう”的企画でした。移動手段はタクシー、バス、地下鉄ですが、中でもバスが一番。難しいコトバは、たいがい地名なので、声に出して読むと分かる。あとはやさしい英語だから心配ない。ヨーロッパではタバコショップで、バスの1日券を売っているのをそれを買うのがコツです。ベネチアチケットなどは1日500円ですから、いいですよ。

そんな旅をぜひしてみたくなりました。(小林)

二月

「誰もが稲城で生き生き暮らす」

話し手：小川 佳子さん

最近は、障がいのある人も地域で生活するようになってきました。そういった人たちの生活する場所にグループホーム・ケアホームがあります。稲城でも少しずつ増えています。今回の話し手の小川さんはそういった施設の責任者をしている方です。



話した内容は、福祉に関わることになったいきさつ、施設やそこでの毎日の様子などです。大変なこともいろいろあるそうですが、多くの人に支えられて施設を運営しているそうです。

後半ではたくさんの質問や意見が飛び交い、熱心な意見交換になったと思います。実際にそこで生活している人から生の声を聞くこともできました。

「誰もが稲城で生き生きと暮らしていけるようになったらいいな。」と思いますが、今回はそう言ったことが少しずつ着実に実現している様子を知ることができました。(川本)

ガンバってます

21



▲熱心に研修中

会の設立は2007年9月。その年の6月〜7月にかけて社会福祉協議会が主催した「傾聴ボランティア養成講座」の第1期修了生が中心となり活動が始まりました。2008年の第2期修了生も加わり、現在の会員数は32名です。以前から他の地域でこの活動をしてきた代表の鈴木さんは、高齢者が増える稲城市にも会を作りたいと思

じつと耳を傾け
心に寄り添って聴く

傾聴ボランティア
「いすなー」

代表：鈴木佐登子さん

●連絡先・社会福祉協議会
ボランティアセンター
☎042-378-3800
(廣田)

不安や寂しさなど孤独感を抱えている方に伝わっていくといいですね！

主な活動は①毎月市内6施設を訪問しての傾聴 ②月1回の定例会・研修会の開催 ③関連機関との情報交換会などです。設立からわずか1年半ですが、とても活発に熱心に取り組んでいる様子が印象的でした。傾聴活動の心得や会員の心得を読むと、真摯な姿勢がしっかりと感じられ、「これからは個人宅への訪問も視野に入れて、会員の勉強をより多く続けていきたい」という鈴木さんの言葉にとても安心感を覚えました。

傾聴とは「相手の話にじつと耳を傾け、話をありのままに受け止め心に寄り添って聴く」という意味で、相手の方と楽しく有意義な時間を共有し、互いに支えあうことを目的に活動をしています。

有意義だったハッピーリタイアメント講座

自分でデザインする定年後の居場所【稲城で輝ける居場所への誘い】という標題で1月24日に、今年度2回目のハッピーリタイアメント講座が行われました。

第1部では、①はつらつワーク/地域での仕事、②社会福祉協議会ボランティアセンター/福祉の活動、③総合型地域スポーツクラブ/健康づくり、④市民活動サポートセンターいなぎ&いなぎエコ・ミュージアム/地域を発見、⑤ふたごぶらぐだ/男の手料理とい

った発表があり、第2部では、各団体のブースを設け、資料を配付しながら、個々に質疑応答が行われました。

引き続いての交流会では、情報交換や懇談が行われました。当日は小雪がちらつく寒い日にもかかわらず、大勢の方が参加し有意義な講座となりました。(稲垣)



午後7時～9時

金曜サロンスペシャル

■ 3月6日 (金)

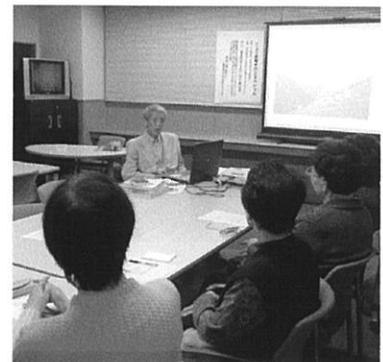
・話し手：湯本 宣さん
(元稲城市職員)

・テーマ：「私が見てきた
“生活大国”デンマーク」

福祉先進国と言われているデンマークですが、乳幼児や老人に対する福祉だけでなく、義務教育や高等教育さらには大人になってからの教育の充実ぶりにも目を見張るものがあります。

セーフティネットも手厚く、労働者も決して過剰労働に陥ることなく、家庭生活を楽しんでいます。

写真を見ながら、そして日本との比較も交えて、生活大国デンマークの様子を報告します。



▲いつも和やかな雰囲気 (写真は昨年12月のスペシャルから：P3参照)

編集後記

先月の15日に、不注意から自転車で転倒、大腿骨を折ってしまいました。退院はしたものの、未だに自宅でリハビリ中です。

そんなわけで、発行以来ず

っと守り通してきた15日の発行日を今回は10日遅らせていただきました。痛い思いをして、健康であることの有り難さを今つくづく感じています。みなさんぜひお氣をつけください。

(小林)

理事会

ほうこく

12月15日……臨時理事会

◎議事

- ① 下半期の予算執行予定について
- ② 21年度の事業について

1月13日……臨時理事会

◎議事

- ① 21年度の事業について
- ② 21年度の運営体制について

NPO法人「市民活動サポートセンターいなぎ」の会員を募集しています・・・年会費3,000円